



Sun N1 Service Provisioning System ユーザーズガイド (Linux Plug-In 2.0)



Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 819-6500-10
2006年4月

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

U.S. Government Rights Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本製品に含まれる HG-MinchoL、HG-MinchoL-Sun、HG-PMinchoL-Sun、HG-GothicB、HG-GothicB-Sun、および HG-PGothicB-Sun は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。HeiseiMin-W3H は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、docs.sun.com、および Java は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標、登録商標もしくは、サービスマークです。

サンのロゴマーク、Solaris のロゴマーク、Java Coffee Cup のロゴマーク、および Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn6 は、オムロン株式会社、オムロンソフトウェア株式会社で共同開発されたソフトウェアです。Copyright OMRON Co., Ltd. 1995-2000. All Rights Reserved. © Copyright OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 1995-2002 All Rights Reserved. ©

「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK Server/ATOK12」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK Server/ATOK12」にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

「ATOK Server/ATOK12」に含まれる郵便番号辞書(7桁/5桁)は日本郵政公社が公開したデータを元に制作された物です(一部データの加工を行っています)。

「ATOK Server/ATOK12」に含まれるフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド』に添付のものを使用しています。

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK のグラフィカル・ユーザインタフェースを実装するか、またはその他の方法で米国 Sun Microsystems 社との書面によるライセンス契約を遵守する、米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法(外為法)に定められる戦略物資等(貨物または役務)に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Sun N1 Service Provisioning System User's Guide for Linux Plug-In 2.0

Part No: 819-4885-10

目次

はじめに	5
1 Linux プラグインの概要	9
Linux プラグインの目的	9
Linux プラグインに含まれるもの	9
Linux プラグインを使用するための要件	10
2 Linux プラグインのリリースノート	11
インストール上の問題	11
実行時の問題	11
3 Linux プラグインのインストールと構成	13
Linux プラグインの入手	13
Solaris への Linux プラグインの追加	14
▼ Solaris 用の Linux プラグインパッケージを追加する	14
Linux への Linux プラグインの追加	14
▼ Linux 用の Linux プラグインパッケージを追加する	14
Windows への Linux プラグインの追加	14
▼ Windows 用の Linux プラグイン MSI ファイルを追加する	15
N1 Service Provisioning System への Linux プラグインのインポート	15
▼ ブラウザインタフェースを使用して Linux プラグインをインポートする	15
▼ CLI を使用して Linux プラグインをインポートする	16
環境に応じたソリューションのカスタマイズ	16
Linux プラグインへのパッチの適用	16
4 Linux プラグインの使用方法	17
Linux RPM ファイルの取得と配備	17

▼ Linux RPM ファイルを取得する	17
▼ Linux RPM ファイルを配備する	18
▼ Linux RPM ファイルをアンインストールする	19
コンポーネントタイプ	19
索引	21

はじめに

このマニュアルでは、N1 Service Provisioning System のインストールと構成について説明します。また、N1 Service Provisioning System を使用して Linux RPM ファイルをプロビジョニングする方法についても説明します。

対象読者

このマニュアルは、Linux と N1 Service Provisioning System ソフトウェアの統合を計画している N1 Service Provisioning System ソフトウェアのシステム管理者およびオペレータを対象にしています。対象読者は、次の知識があることを前提とします。

- N1 Service Provisioning System 製品
- 標準の UNIX[®] および Microsoft Windows コマンドとユーティリティー
- Linux および RPM に関連する一般的な概念

お読みになる前に

まだ N1 Service Provisioning System ソフトウェアに精通していないユーザーは、次のマニュアルをお読みください。

- 『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 管理者ガイド』
- 『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 オペレーションとプロビジョニングガイド』
- 『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 リリースノート』

マニュアルの構成

第 1 章では、Linux プラグインの概要について説明します。

第 2 章では、インストールと実行時の問題について説明します。

第 3 章では、Linux プラグインのインストールと構成方法について説明します。

第 4 章では、Linux RPM ファイルを取得して配備する方法と、Linux プラグイン固有のコンポーネントタイプを特定する方法について説明します。

マニュアル、サポート、およびトレーニング

Sun の Web サイトでは、以下の追加情報を提供しています。

- マニュアル (<http://jp.sun.com/documentation/>)
- サポート (<http://jp.sun.com/support/>)
- トレーニング (<http://jp.sun.com/training/>)

表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用しません。

表 P-1 表記上の規則

字体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。 machine_name% you have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	machine_name% su Password:
<i>AaBbCc123</i>	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、rm <i>filename</i> と入力します。
『』	参照する書名を示します。	『コードマネージャ・ユーザーズガイド』を参照してください。
「」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第 5 章「衝突の回避」を参照してください。 この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	sun% grep '^#define \ XV_VERSION_STRING '

コード例は次のように表示されます。

- C シェル


```
machine_name% command y|n [filename]
```
- C シェルのスーパーユーザー

```
machine_name# command y|n [filename]
```

- Bourne シェルおよび Korn シェル

```
$ command y|n [filename]
```

- Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザー

```
# command y|n [filename]
```

[] は省略可能な項目を示します。上記の例は、*filename* は省略してもよいことを示しています。

| は区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します (例: Shift キーを押します)。ただし、キーボードによっては Enter キーが Return キーの動作をします。

ダッシュ (-) は 2 つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、Ctrl-D は Control キーを押したまま D キーを押すことを意味します。

◆ ◆ ◆ 第 1 章

Linux プラグインの概要

この章では、N1 Service Provisioning System を使用した Linux RPM ファイルと Linux アプリケーションのプロビジョニングに関する一般的な情報を説明します。この章では、次の内容について説明します。

- 9 ページの「Linux プラグインの目的」
- 9 ページの「Linux プラグインに含まれるもの」
- 10 ページの「Linux プラグインを使用するための要件」

Linux プラグインの目的

Linux プラグインは、RPM (Red Hat Package Manager) ファイルコンポーネントタイプを N1 Service Provisioning System ソフトウェアに追加します。RPM ファイルは、アプリケーションが必要とするすべての部分を含んでいます。RPM ファイルコンポーネントタイプを作成することで、あとでこれらのコンポーネントを別の Linux システムに配備することができます。つまり、RPM ファイルに含まれるアプリケーションをこれらのシステムに配備できます。

Linux プラグインに含まれるもの

Linux プラグインは、RPM file コンポーネントを含みます。このコンポーネントタイプは、Linux RPM ファイルを識別します。

Linux プラグインを使用するための要件

Linux RPM ファイルを配備する予定のホストは、次のリリースのいずれかを実行している必要があります。

- Red Hat Enterprise Linux 2.1 Advanced Server
- Red Hat Enterprise Linux 3.0 Advanced Server (32 および 64 ビット)
- Red Hat Enterprise Linux 4.0 Advanced Server (32 および 64 ビット)

◆◆◆ 第 2 章

Linux プラグインのリリースノート

この章では、Linux プラグインの最新情報、および既知の問題について説明します。

インストール上の問題

インストールに関する問題はありません。

実行時の問題

実行時に起きることが判明している問題はありません。

Linux プラグインのインストールと構成

この章では、次の項目について説明します。

- 13 ページの「Linux プラグインの入手」
- 15 ページの「N1 Service Provisioning System への Linux プラグインのインポート」
- 16 ページの「環境に応じたソリューションのカスタマイズ」
- 16 ページの「Linux プラグインへのパッチの適用」

Linux プラグインの入手

Linux プラグインを入手する手順は2段階に分かれます。はじめに Linux プラグイン JAR ファイルが含まれたパッケージファイルをシステムに追加する必要があります。そのあとに Linux プラグイン JAR ファイルをインポートします。

Linux プラグインは、N1 Service Provisioning System ソフトウェアに対するプラグインとしてパッケージ化されています。Linux プラグイン用のプラグインファイルは、N1 Service Provisioning System 5.2 DVD または Sun Download Center から入手できます。

パッケージファイルをシステムに追加すると、Linux プラグインは2種類の JAR ファイルからインポートできます。状況に応じて、適切なファイルを選択してください。

- Linux プラグインをはじめてインストールする場合は、`com.sun.linux_2.0.jar` ファイルを使用します。
 - 旧バージョンの Linux プラグインがすでにインポートされている場合は、`com.sun.linux_1.1_2.0.jar` ファイルを使用します。
1. JAR ファイルを含むファイルを追加します。
 - 14 ページの「Solaris への Linux プラグインの追加」
 - 14 ページの「Linux への Linux プラグインの追加」
 - 14 ページの「Windows への Linux プラグインの追加」
 2. JAR ファイルをインポートします。- 15 ページの「N1 Service Provisioning System への Linux プラグインのインポート」

Solaris への Linux プラグインの追加

Linux プラグインは、SUNWspslnx パッケージに含まれています。

▼ Solaris 用の Linux プラグインパッケージを追加する

- 1 端末ウィンドウで、スーパーユーザーになります。
- 2 プラグインパッケージを含むディレクトリに移動します。
- 3 次のコマンドを入力し、Return キーを押します。

```
# pkgadd -d package_directory SUNWspslnx
```

スタンドアロン用 JAR ファイルは /opt/SUNWn1sps/plugins/com.sun.linux/ ディレクトリにあります。アップグレード用 JAR ファイルは /opt/SUNWn1sps/plugins/com.sun.linux/Upgrade ディレクトリにあります。

Linux への Linux プラグインの追加

Linux プラグインは、sun-spslrx-2.0-1.noarch.rpm ファイルに含まれています。

▼ Linux 用の Linux プラグインパッケージを追加する

- 1 端末ウィンドウで、スーパーユーザーになります。
- 2 sun-spslrx-2.0-1.noarch.rpm ファイルを含むディレクトリに移動します。
- 3 次のコマンドを入力し、Return キーを押します。

```
# rpm -i package_directorysun-spslrx-2.0-1.noarch.rpm
```

スタンドアロン用 JAR ファイルは /opt/sun/N1_Service_Provisioning_System/plugins/com.sun.linux ディレクトリにあります。アップグレード用 JAR ファイルは /opt/sun/N1_Service_Provisioning_System/plugins/com.sun.linux/Upgrade ディレクトリにあります。

Windows への Linux プラグインの追加

Linux プラグインは sun-spslrx-2.0.msi Microsoft Installer (MSI) パッケージファイルに含まれています。

▼ Windows 用の Linux プラグイン MSI ファイルを追加する

- 1 linux.msi ファイルを含むディレクトリに移動します。
- 2 sun-spslnx-2.0.msi ファイルをダブルクリックします。
インストーラの GUI が起動されます。JAR ファイルは、c:\Program Files\N1 Service Provisioning System\plugins\com.sun.linux ディレクトリにコピーされます。アップグレード用 JAR ファイルは c:\Program Files\N1 Service Provisioning System\plugins\com.sun.linux\Upgrade ディレクトリにあります。

N1 Service Provisioning System への Linux プラグインのインポート

ある特定のプラグインを N1 Service Provisioning System 製品に認識させるには、そのプラグインをインポートする必要があります。プラグインをインポートするには、『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 システム管理者ガイド』の第 5 章「プラグインの管理」で詳しく説明されている手順に従います。

▼ ブラウザインタフェースを使用して Linux プラグインをインポートする

プラグインをインポートまたはアップグレードするには、『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 システム管理者ガイド』の第 5 章「プラグインの管理」で詳しく説明されている手順に従います。

- 1 ブラウザインタフェースのメインウィンドウの「Administrative」セクションで、「Plug-ins」をクリックします。
- 2 「Plug-ins」ページの「Action」列で、「Import」をクリックします。
- 3 JAR ファイルの場所に移動します。
 - Linux プラグインをはじめてインポートする場合は、com.sun.linux_2.0.jar ファイルを選択します。
 - 旧バージョンの Linux プラグインがすでにインポートされている場合は、com.sun.linux_1.1_2.0.jar ファイルを選択します。
- 4 「Continue to Import」ボタンをクリックします。
インポートが正常に終了すると、プラグインの詳細ページが開いて、そのプラグインが提供するオブジェクトが表示されます。

▼ CLI を使用して Linux プラグインをインポートする

コマンド行を使用して、プラグインをインポートすることもできます。

- ▶ CLI からプラグインファイルをインポートするには、次のように入力します。

```
% cr_cli -cmd plg.p.add -path plugin-filename -u username -p password
```

- Linux プラグインをはじめてインポートする場合は、*plugin-filename* は `com.sun.linux_2.0.jar` になります。
- 旧バージョンの Linux プラグインがすでにインポートされている場合は、*plugin-filename* は `com.sun.linux_1.1_2.0.jar` になります。

環境に応じたソリューションのカスタマイズ

/com/sun/linux フォルダに対しては、アクセス許可は何も与えないでください。

Linux プラグインへのパッチの適用

Linux プラグインに適用可能なパッチは、SunSolve (<http://sunsolve.sun.com>) サイトを確認します。パッチを適用するには、パッチの README ファイルの手順に従います。

◆ ◆ ◆ 第 4 章

Linux プラグインの使用法

この章では、Linux プラグインの使用方法について説明します。この章では、次の内容について説明します。

- 17 ページの「Linux RPM ファイルの取得と配備」
- 19 ページの「コンポーネントタイプ」

Linux RPM ファイルの取得と配備

エンタープライズにわたって Linux アプリケーションを配備する場合、基本的に次のプロセスを含みます。

- 既存の場所にある RPM ファイルをコンポーネントに含める
- そのファイルを別の Linux システムに配備する

▼ Linux RPM ファイルを取得する

システム間にわたってファイルを配備する前に、このファイルを N1 Service Provisioning System ソフトウェアに認識させ、それをコンポーネントに含める必要があります。

- 1 **N1 Service Provisioning System** ブラウザインタフェースのメインページで、「**Create New Component**」をクリックします。
「Components」ページが現れます。
- 2 「Action」列の「**Create link**」をクリックします。
- 3 コンポーネントの名前を入力します。
- 4 コンポーネントタイプとして「com.sun.linux#RPM file」を選択します。
プラットフォームタイプが system#RedHat Linux - any version に変更されます。

- 5 (省略可能) そのコンポーネントのラベルと説明を入力します。
- 6 RPM ファイルを取得するホストとパス名を選択します。
- 7 「Check In」をクリックします。

▼ Linux RPM ファイルを配備する

- 1 以下の説明に従って、コンポーネントを取得します。
- 2 N1 Service Provisioning System アプリケーションの「Components」セクションへ進みます。
- 3 配備するコンポーネントを選択します。
- 4 インストールプロシージャの横にある「Action」列の「Run」をクリックします。
インストールプロシージャを実行するための「plan details」ページが現れます。
- 5 ターゲットホストを選択します。
ターゲットホストは、配備するコンポーネントと一致するバージョンの Linux オペレーティングシステムを実行している必要があります。
- 6 `installPath` コンポーネント変数として、RPM ファイルをインストールするターゲットホストの場所を指定します。`installPath` 変数の値は、`/opt` のような絶対パスを指定しない限り、デフォルトのリモートエージェントディレクトリへの相対パスとして扱われます。
- 7 `pkgName` コンポーネント変数として、RPM ファイルに存在するパッケージ名を指定します。

Linux サーバーでは、次のコマンドでパッケージ名を出力します。

```
# rpm -qp path-of-rpm-file --qf '%{NAME}'
```

注-パッケージ名を指定しないか、間違った名前を入力すると、ファイルを配備できず、エラーメッセージが表示されます。失敗した手順の `stdout` メッセージは実際のパッケージ名を表示するため、エラーメッセージを使用して `pkgName` コンポーネント変数を決めることもできます。

- 8 「Run Plan」をクリックします。

▼ Linux RPM ファイルをアンインストールする

- 1 N1 Service Provisioning System アプリケーションの「Components」セクションへ進みます。
- 2 アンインストールする RPM のコンポーネントを選択します。
- 3 アンインストールプロシージャの横にある「Action」列の「Run」をクリックします。アンインストールプロシージャを実行するための「Plan Details Run」ページが現れます。
- 4 「Current Installation」フィールドで、RPM を削除するホストをクリックします。
- 5 「Run Selected Installations」をクリックします。
コンポーネントのアンインストールプランが表示されます。
- 6 「Run Plan (includes preflight)」をクリックします。

コンポーネントタイプ

RPM file コンポーネントタイプは、Linux RPM ファイルコンポーネントを識別します。このファイルタイプを使用するコンポーネントを作成した場合、コンポーネントはデフォルトインストールプロセスとデフォルトアンインストールプロセスを持ちます。

索引

J

JAR ファイル, 13-15

Java アーカイブ, 「JAR ファイル」を参照

プラグインファイル

インポート, 15-16

場所, 13-15

L

Linux プラグイン

インポート, 15-16

構成, 16

R

RPM, 9

RPM fileコンポーネントタイプ, 19

RPM ファイル

アンインストール, 19

配備, 18

RPM ファイルのアンインストール, 19

RPM ファイルの取得, 17-18

RPM ファイルの配備, 18

こ

コンポーネントタイプ, RPM ファイル, 19

ふ

プラグインのインポート, 15-16

プラグインの構成, 16

